

<食のリスクを考えるシンポジウム>
**いわて生協の
食の安全・安心のとりくみ**



2014年8月6日いわて生協

いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 3

品質保証・管理のとりくみ

1. 工場点検、産直生産者の点検

⇒いわて生協開発商品の工場点検（年1回53工場で実施）

⇒産直品は公開安全確認会で点検（年1回32産地で実施）

2. 検査

⇒いわて生協商品検査室

（いわて生協製造・加工商品の細菌検査 年間3千件検査）

⇒日本生協連商品検査センター

（コープ商品の添加物・残留農薬検査など年間2万2千件検査）

3. お申し出・事故対応

⇒商品事故の防止につなげるために、商品へのご指摘を把握。

いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 1

基本的な考え方

多くの組合員の願いである「安全・安心、健康な食生活」の願いにこたえる運動・事業を強め、食の安全と農林漁業を守り、食料自給率を高めることをめざす。



いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 3

食の安全を守るためのとりくみ

1. 食品添加物の自主基準の設定。

⇒いわて生協開発商品17品目の添加物不使用

一般メーカー商品でも12品目不使用

2. 産直品は、生産者と協力し農薬の使用減、飼料米や遺伝子組み換え飼料の使用を努力。



いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 2

3. 遺伝子組み換え食品の使用制限、表示努力。

⇒いわて生協開発商品では、遺伝子組み換え原料は使用しない。コープ商品ではしょうゆなど表示義務がないものも表示を行う。

4. 放射性物質自主モニタリング検査の実施。

⇒2013年度は201品目実施。
⇒食事の放射性物質調査も実施。



生協だけでは実現できないことは、行政にも働きかけを実施。



2011年放射性物質の対策強化を求めて、国や市町村に要請。

空間放射線量の測定結果のお知らせ



いわて生協では4台の空間放射線量計を購入し、5月より希望される方に無料で貸し出しています。8月末までに50人の方が利用し、45人の方から測定結果を提出いただきました。その結果について、お知らせします。

国では、年間1mSvを超える汚染地域を、市町村単位で「汚染状況重点調査地域」と指定し検査作業を行います。年間1mSvとは、算出している地域の観測値で0.190μSv/h以上となります。

■地表1mでの空間放射線量の測定結果(45人分)

地域	測定数	地表1mでの最大測定値(μSv/h)
県北	3	0.041~0.117
沿岸北部	4	0.052~0.094
盛岡周辺	21	0.032~0.080
県南	8	0.072~0.531
沿岸南部	9	0.071~0.187

調査方法

地表5cmと1mの放射線量を測定、10秒ごとに数値を記録し、60秒までの記録の平均値を測定結果とします。今回は、地表1mの記録の中から一番高い数値をまとめています。

調査結果

今回の調査では、0.190μSv/hを超えた方もありますが、そのほとんどがセシウムがたまりやすいとされて雨などの下や風雨などで計測されたものでした。

検査結果やとりくみは組合員にお知らせ

2012年度 モニタリング自主検査の結果

7月9日から8月30日までに、農産品7品目、アイコープ・アースタイル商品14品目、市場流通品8品目の放射性物質自主検査を行いました。いずれも「検出限界値未満」でした。(検出限界値は放射性セシウム134・137は10Bq/kg、放射性ヨウ素131は20Bq/kg)

検査品	産地	検査結果
アイコープ・アースタイル商品	産地産品	産地産品センター(キャベツ)、三本輝ふれあいクラブ(トマト)、牧野林産品(トマト)、JAいわて花巻(玉ねぎ)、今松野産生産組合(とうもろこし)、後沼産品(産産さくら餅)、JA新いわて特産(じゃがいも)
	市場流通品	栃木県産、福島県産、茨城県産とうもろこし、岩手県産古市産スルメイカ、岩手県大船産市産あじ、ごま(ば)、ひらめ、宮城県産かつお

「放射能測定器」を導入しました

7月まではすべて外部機関に委託していましたが、いわて生協内に検査機器を導入し、8月6日より検査を実施しています。



岩手県の食品検査はどうなっているの？

岩手県の検査は4月1日～8月29日で7,615件が行われ、基準値超過は222件でした。しかし、基準値超過は、下の表のように限られた品目となっており、これらは出荷制限が行われています。

岩手県が実施した放射性物質検査の結果 (2012年4月1日～8月29日) 厚生労働省発表資料より

食品群	検査件数	基準値超過件数	超過品目
農産物	318	138	農シイタケ18件、天狗山産物20件
畜産物	5,606	—	—
水産物	704	8	ウグイス5件、イワナ2件、クロソビ1件
牛乳・乳児用食品	250	—	—
野生鳥獣肉	13	5	シカ肉4件、クマ肉1件
飲料水	5	1	茶(散用)1件
その他	219	70	農シイタケ70件
小計	7,615	222	—

※畜産物の検査件数が多いのは、牛の全戸・全頭検査を行っているためです。また、シイタケ類の超過品目が多くなっていますが、これは全生産者検査を行ったためです。

いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 2

県産・国産の農林水産物の利用を増やすとりくみ

1. 県内32団体と産直提携
⇒年間で25億3千万円の供給(2013年度)
2. 県内53社と共同で
県産原料の商品開発
⇒年間で12億8千万円の供給(2013年度)



いわて生協の食の安全・安心のとりくみ 2

3. 組合員（利用者）も関わって⇒信頼・安心へ

⇒商品開発には組合員も参加。

⇒産直品は年1回「公開安全確認会」で組合員の代表がチェック。

⇒試食会や学習会、生産者見学・交流などでよさところだわりを知る。

⇒組合員自らが、まわりの方によさと利用をおすすめ。

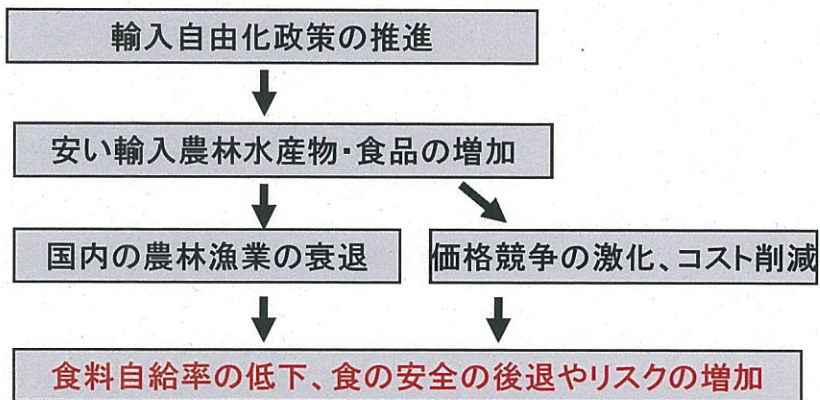


安全・安心を確かなものに
 安全・安心を確かなものにするには、生産者だけでなく、消費者も役割があります。いわて生協では、生産者と消費者が直接つながる「公開安全確認会」を開催しています。この会では、生産者が収穫した農産物の安全性を確認し、消費者もチェックを行います。また、試食会や学習会、生産者見学・交流などを通じて、生産者の取り組みや努力を知り、安心して利用できるよう努めています。

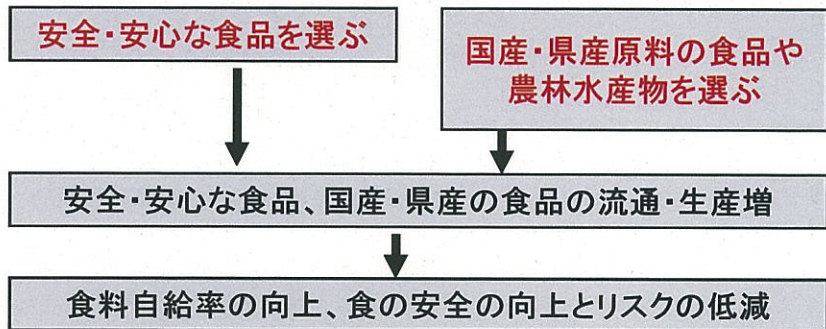
生産者のとりくみや努力も組合員にお知らせ

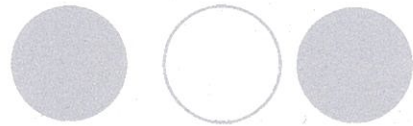
牛乳の放射能検査
 放射能検査の結果、安全であることが確認されています。安心してご利用ください。

食の加工品化、グローバル化の中で食のリスクは高まっているし、今後も高まる。



では、どうしたらいいのか・・・
 各企業が食のリスクへのチェックを強化するのはもちろんだが、食のグローバル化の中では限界も・・・。
消費者が何を選ぶかが、市場を変え、結果としては食のリスクを減らすことになるのでは・・・。





ご清聴ありがとう
ございました。